

夏季の1段密植栽培トマトは遮光ネットを使って 糖度と果重を向上させる

野菜・茶業研究所

トマトの1段密植栽培における夏季の生産安定技術を確認するため、遮光ネットを用いた生産技術について検討したのでその概要を紹介する。

【普及したい技術のポイント】

- ①遮光資材を外張り展張することで着果数は増加するが、糖度が低下する。
- ②糖度は遮光ネット展張下でもストレス処理時の食塩濃度を高めることで上昇する。
- ③遮光資材はハウスビニルも含めた遮光率が45%程度になる明涼で果重が増加する。

【遮光による着果数の増加】

夏季に遮光ネットをハウスビニルに重ねて張ることで着果数は増加するが糖度は低下する。

遮光資材は、明涼が適する。明涼では、メガクールネットと比較してハウス内気温が1.8℃高くなるが、果重が大きく、糖度も高くなる。

表1 遮光の有無と果実に及ぼす影響(2007)

定植日	遮光	可販果		総収穫 果数/株
		果数/株	糖度	
7/5	有	3.7	6.5	4.0
	無	2.2	9.3	
7/26	有	3.2	6.7	3.5
	無	2.8	6.9	

注) 遮光処理はメガクールネットを用いた。

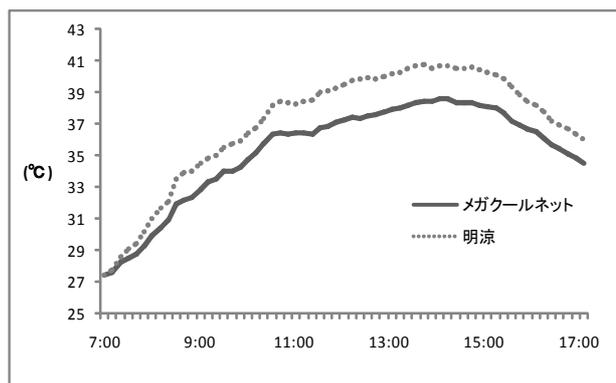


図2 晴天時7時～17時までのハウス内気温
(2008.7.6～7.10)

【遮光下での糖度上昇と果重増加】

遮光ネット展張で低下する糖度は、ストレス処理時の食塩濃度を0.2%にすることで高くできる。

注) 実測遮光率

明涼(表示20%) 45%、メガクールネット(表示40%) 56%

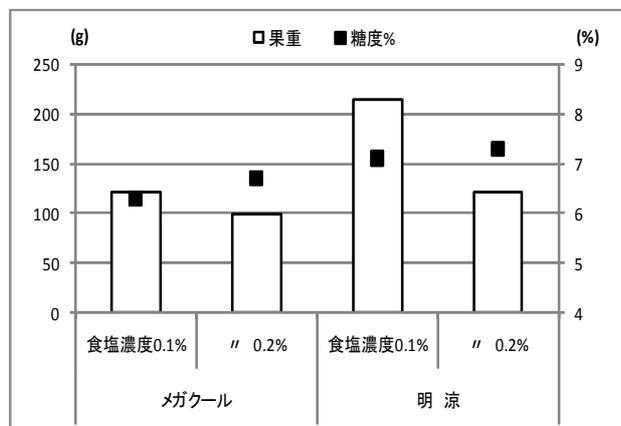


図1 遮光と食塩濃度による果重と糖度の変化
(2008.6.3定植)

【利用上の留意点】

○時期によっては栽培槽のEC上昇が緩やかになるため糖度が上がりにくい場合があるのでEC上昇に沿った食塩濃度処理をする必要がある。